

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人滋賀大学

1 全体評価

滋賀大学は、地域に根ざす視点とグローバルな視野とをあわせもつ「知の拠点」として、豊かな人間性を備えた専門性の高い職業人の養成と、創造的な学術研究への挑戦を通して、社会の持続可能な発展に貢献することを基本理念としている。第3期中期目標期間においては、こうした理念を踏まえて、グローバル化する社会にふさわしい未来志向で文理融合の学識と、地域の発展に貢献できる課題解決能力を備えた、イノベーティブな創造力を有しリーダーシップを発揮できる人材の育成をさらに推し進めるとともに、これまでの重点領域である環境・リスクの研究課題に継続して取り組むのみならず、新たな重点領域を切り拓いていくことを目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、大学院データサイエンス研究科修士課程（博士前期課程）を設置するとともに、大学院経済学研究科において、データサイエンス研究科博士前期課程の設置に伴い、「データサイエンス副専攻」プログラムを開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- データサイエンス教育研究センターにおいて、教育プログラムの開発、研究成果を活用した課題解決、社会人教育、地域貢献、企業データを用いたPBL演習教材の開発等を目的とした企業等との連携協定、共同研究・受託研究契約の締結を積極的に推進した結果、データサイエンス教育に係る協定等締結機関数は、第3期中期目標期間中に目標としていた10機関を上回り、令和元年度末時点で82機関となっている。また、講師派遣等を含めると、連携先は100機関を超えるまでに伸展しており、データや教育研究の現場の提供、若手データサイエンティストの派遣等様々な場面で滋賀大学の実践的なデータサイエンス教育の実現に大きく貢献している。（ユニット「ビッグデータ時代におけるデータサイエンス教育研究拠点の形成」に関する取組）
- 海外留学者に対する奨学金制度の見直しを行い、学長裁量経費により、私費で海外の大学の正規課程に1学年間以上留学する者を対象に100万円を支給する制度を設け、経済的支援の充実を図っている。また、米国の非営利教育団体 CIEE との間で教育研修プログラムに係る協力協定を締結し、米国の諸大学から派遣留学生を受け入れる体制を整備し、初年度となる令和元年度は8名の学生受入れを行っている。（ユニット「グローバル人材の育成機能の強化」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載18事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 国際交流機構の設置と高度専門職員の採用

グローバル化に対応した人材育成機能及び国際的研究連携力の強化を目指して、国際企画部門と留学生支援部門からなる国際交流機構を設置するとともに、グローバル化をさらに進展させることを目的として、国際交流機構に「高度専門職員」(特命教授)のポストを新設し、国際機関上級職経験のあるエキスパート人材を採用している。高度専門職員は、大学の中長期的なグローバル化戦略の設定に中心的な役割を果たすなど、これまでの経歴を活かして活躍している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ データサイエンス研究科における遠隔指導の実施

データサイエンス研究科が進める柔軟な受講スタイルの一環として、企業派遣の社会人学生が派遣元の企業や自宅等からでも研究指導を受けることができるように、ビデオ会議システムを用いた遠隔指導の仕組みを導入し、この遠隔指導の仕組みにより、社会人学生が会社内にいながら担当教員の指導を受けることが可能となっている。